

平成16年度日本研究情報専門家研
修

平成16年

12月17日

日本のネットワーク情報の活用

京都外国語大学

枝元 益祐

m_edamoto@kufs.ac.jp



contents

1. ネットワーク上の日本関係情報源
2. 日本のWebの特徴（使用上の注意点）
3. 日本情報を検索する際に役立つ情報源
4. Webサイトの評価



1. ネットワーク上の日本関係情報源(総論)

どんな情報が探せるか？

ネットワークにアップされ易
いもの

ex. 商業ベースのもの

学術情報

個人的なもの

探し難いもの

大学本部のサーバー
と学部サーバーとの
関連 など



ex. 灰色文献

機関の組織図、機構

図



2. 日本のWebの特徴(各論)

- ①日本語による情報量と
英語による情報量の
差
- ②継続性・更新頻度の問題
- ③主題検索の困難さ
- ④情報の非公開性の問題



①英語情報よりも日本語情報が多い！

HomeやTopページは基本的に日本語

英語対応も一応あるが、不完全なことが多い

ex. http://www.kufs.ac.jp/kufs_new/index.html

他言語(ドイツやフランス、イスパ、ハンゲル、中国など)対応のものもときにはあるが、圧倒的に、日本語

故に、検索は『日本語』で行うべし！！



日本語を使つてのWeb検索の注意点

漢字、平仮名、片仮名の使い分け

表記方法にも注意が必要

ex. 「バイオリン」と「ヴァイオリン」

「ウェーバー」と「ヴェーバー」
※名前は要注意

<http://www.nii.ac.jp/index-j.html>



②継続性・更新頻度の問題

参照：「ウェブの動的変化に関する調査」

<http://www.slis.keio.ac.jp/~ueda/webir/webir032.pdf>

継続性に問題あり：2年後の生存率が約半分

更新性に問題あり：

生存ページの内、約半分が2年間更新なし



Webの主流の動き

言語・文学、あるいは、学術情報中心の流れ



現代的テーマ、文化、マンガ、映画、
アニメ、サブカルチャーなどの台頭

確定情報から流動的な関心情報へとシフト

確定情報は固定的であるため、更新性の問題を内包する
関心的情報は社会のトレンドに敏感に反応するため、継続性の問題を内包する

つまり・・・場合に依じた使い分けが必要！！



③主題検索の困難さ

OPACにおける主題検索機能の脆弱性

著者検索や書名検索の方が有利

各種データベースにおける主題検索機能の脆弱性

件名標目表の不浸透や分類法の不統一

司書養成段階での教員の希望と学生ニーズの齟齬

コンピュータ普及による功罪



④情報の非公開性(プライバシーの重視)

大学のWebにおける教員に関する 情報の非公開性

Web上での個人情報、あるいは、特定個人のメールアドレスやファックス番号などは掲載されないことが多い

大学当局のWebと学部のWebとが独立していることがある。運営母体の違いから、リンクを張るかどうかは不確定要素である。



3. 日本情報を検索する際に役立つ情報源

別途、資料参
照

- その1. 検索は、日本語を使用した方が有利
- その2. まず漢字で試してみる

cf. 表記法や仮名に**注意!**

※映画の検索は**要注意!!**

日本のタイトルと原タイトルとは**全然違うことが多い**

<http://www.walkerplus.com/movie/kinejun/index.cgi>



日本の図書館による

Web OPACを利用する際の注意 点

目録カードの遡及入力

OPACの収録範囲

OPACごとの検索方法の違い

図書館同士の協力関係

総合目録ネットワーク

横断検索

http://www.ndl.go.jp/jp/library/backlist_network.html

<http://www.library.pref.kyoto.jp/>



4. Webサイトの評価

サイトの作成者(著作者)

サイトの構築、運営機関の偏向性

サイトの運営理念、開設目的と収録範囲
収録内容の正確性

関連するリンク

作成日と更新頻度

デザイン(アクセシビリティ)

検索の容易性

